

平成 28 年 12 月 20 日

陳 述 書

私は、[REDACTED]さんの知人です。本陳述書では、彼の引き離された子との今後の関係に影響する彼ら家族についての調査報告書について意見を述べます。

1. [REDACTED]さんとのかかわりについて

私は、今年 2 月に [REDACTED]さんが、息子さんを連れ去られた直後に、彼がインターネット上に作ったコミュニティにおいて知り合い、以後、お互いの詳細な状況を日々相談し合う仲です。私は [REDACTED]に住んでいる為、通常はインターネット上のコミュニティを介したやり取りをしておりますが、東京出張時には、彼の住まいの近くで会ったりもしております。私は、彼を非常に子供思いな人物と感じています。

2. 私の子どもとの状況について

私自身も彼と同じように配偶者に子を連れ去られ断絶されている父親です。連れ去られ当時、11 歳の長男と 5 歳の長女の二人の子どもが居ます。私の場合も、ある日突然、子を連れ去られ、親権と金銭などの経済条件を請求する係争を起こされました。そのような状況でも、長男は母親に隠れ、従前の生活場所にこっそり通ってくれていました。ところが、ある日、子供が家に遊びに来た時に子供から「ママにパパのところに絶対行かないように、言われてる。GPS 付きの携帯を持たされ居場所を探られてる。パパどうしたらいいやろ。」と相談され、やりきれない思いでいました。その時、電話が鳴り、長男は慌てて裸足で外に飛び出し母親に電話で必死に「パパところには行っていない。」と嘘をついていましたが、母親にはわかっており、子供は悲しそうに帰っていきました。それを見た私は非常に心が痛みました。また、その後一切長男は来ないようになり、それ以来会えていません。

[REDACTED]さんのお子さんは、調査報告書に示されたように父親に会いたいと思っても、会わせない親に支配されてしまえば、自力で脱出するまでに、まだまだ長い年月がかかります。私の長男は隠れて、通っていてくれたため、争わず妻を落ち着かせることが、子の福祉に叶うと判断して、私は離婚訴訟を起こされても、事実と異なる主張にも一切認否せずに、すべての請求を不本意でも受け入れ、負けることに

より精神不安定な妻を落ち着かせ、子ども達が、こそこそせず、従前の生活と父親との関係を少なからず修復できると考えました。

しかし、結果は見事に裏切られ、単独親権を得たという立場から更に暴走し、長女と会えないどころか、長男の監視を強め、こっそり会うことすら完全にできなくされました。単独親権を認められた後には、「子の意思」として父親と「会いたくないと言っているから会わせられない」と主張してきました。長男とはメールでやり取りをできる仲でしたが、母親の主張通り「会いたくない。構うな。」という今迄の私と長男の関係からは考えられないメールが届きました。母親が監視し、母親が成りすましているのかもしれませんが、本人のものであれば、相当の洗脳虐待を受け苦しんだ結果だと感じています。私は、もう会いたいという気持ちすらを諦める決断に迫られています。私は、子どもも資産も生きがいも何もかもを失いました。

親子の引き離しを不利にせず、その行為を動機づけている裁判所の方々には、現在の私の心境を是非、ご自身に置換え想像していただきたいと思います。

3. 子どもを巻き添えにしているのは誰か

ほぼ殆どの連れ去り引き離しの事件において、「子が葛藤の強い夫婦の巻き添えになっている」という意見により、子を思う親の気持ちが悪用され、泣き寝入りを促され、このような残酷な事件を日本全国に長期にわたり蔓延させています。

私は係争に子を巻き添えにしたくない一心で、すべての虚偽や不当な請求を受け入れましたが、結果としては何も残らず親子は断絶され、その手段として子の人格が侵されました。

■■■■さんの調査報告書を拝見すると「子が両親に気を使っている」とあります。果たしてそうでしょうか。会いたい気持ちを押し殺しているのであれば「両親では無く実効支配親の圧力を常に意識する呪縛にかけられている」のであり、父親に気を使っているのではないでしょう。私のケースでも長男は私に気を使って従前の生活にこそこそ戻ってきたのではなく、従前の生活と私から引き離される理由がないから来ていたのです。長女は私に気をつけて断絶されているのではなく、母親の支配に服従する選択しかできないから断絶されているのです。

子を巻き添えにしている加害者は、子どもの居る家庭を守ろうと必死に努めていた引き離され親ではありません。精神不安定になり、子に片親疎外という精神的虐待をしている支配親を容認し、有利にする判断を下し、安易に済ませたい司法により、子の人生が巻き添えになっているのです。

もうこれ以上、被害を蔓延させず、現状の司法自身が加害当事者となっている意識を持っていただきたくお願い申し上げます。

以上